

土壌インベントリ説明会（北海道国有林調査団体向け）

開催日：2006/9/28

開催地：札幌市羊ヶ丘7 森林総研北海道支所実験林内



会議室での概略説明



ササの中での調査地の選定



代表断面写真 BD(d)



代表断面の調査方法

記録

北海道内国有林の調査を行う3社の担当者が全道から集まり20名の参加者があった。はじめに森林総研北海道支所の会議室で事業の目的や概要を短時間で説明し、野外実習に移行した。時折小雨が降ったが、予定通りの時間割で進めることができた。ここは実際の調査地ではなく、羊ヶ丘実験林構内にインベントリ調査地を想定した実習プロットを前日に準備したものである。調査地はシラカンバを中心とした広葉樹林で、林床はクマイザサである。プロットを林道が横切るように設置して林道などの障害がある場合の対応を説明した。代表断面の作成方法、枯死木の調査方法や分解度の判定の説明の後、4班に分かれて土壌炭素蓄積量調査を開始した。4カ所の土壌断

面は微地形によりかなり相違し、L層と薄いF層の下にA層の深い黒色土を呈する断面とA層が浅く黒みの薄い褐色森林土の断面が認められた。短い昼食後、引き続き、堆積有機物採取や円筒採取の実習を行った。最後に代表断面の見方の説明を行った。土壌断面は表層付近に火山灰が混入している褐色森林土であり、表層に乾燥気味の特徴を示す粒状構造や堅果状に類似した構造が目立った。落葉の分解は良好でA0層は比較的薄い。土壌型はBD(d)と判定した。

北海道では林床はササに覆われることが多い。調査杭の確認も手間取るかもしれない。そのような場所の表層土壌はササの根系が密生するので、サンプル採取や断面調整のためには根の処理に手間がかかる。今回はクマイザサであったが、より桿の太いチシマザサの場合、より時間がかかる。また、火山灰が土壌に混入することが多いので、土壌型判定は難しい場合が予想される。

ただし調査はベテランの林業関係者が多いので、現場作業は要領よく進められると期待できる。

9:00 北海道支所会議室開催

事業の概要説明

9:45 調査地へ移動

10:15 土壌炭素蓄積量調査の試験地設定

10:45 土壌代表断面の作成法

11:10 枯死木調査法

11:30 代表断面の掘削方法

12:00 昼食

12:30 土壌炭素量調査（堆積有機物と円筒採取）

14:30 実習

15:30 土壌代表断面の見方

16:30 終了 現地解散

参加者（敬称略）

林野弘済会札幌支部 浦田、山田、鈴木

同 函館支部 倉知、小島、工藤、竹山

同 帯広支部 北野、北澤

同 北見支部 鎌田

同 旭川支部 得永、小岩、高橋

日本森林協会北海道事務所 猪瀬、佐藤

林業土木コンサルタント北海道支所 菅原、細川

同 帯広事務所 野津、松野

同 旭川事務所 一瀬

講師：森林総研 6名 本所：高橋、吉永、相澤、
北海道支所：田中、酒井、阪田